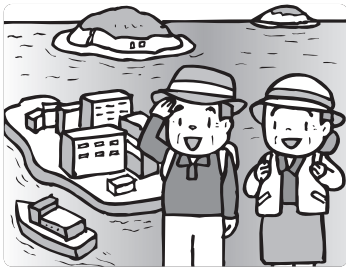


炭鉱遺産の活用

問 長崎の炭鉱遺産の価値を検証・継承するための取組状況、炭鉱遺産を生かした高島の観光振興、端島・伊王島・高島・池島の4島を結ぶ観光ルートづくりについての市の見解を伺いたい。

答 炭鉱遺産については、平成26年度に当時の記憶に基づく証言や体験談の収集、映像による記録保存等を行っており、平成27年度以降も調査を進め、基礎資料の蓄積を行っていく。炭鉱遺産を生かした高島の観光振興については、今後、世界遺産登録に向けて増加が見込まれる観光客の利便性の向上に努めるとともに、電気自動車等の導入により、島内観光の回遊性を高め、島内の飲食店等への誘客を図り、地域への経済効果を高めていきたい。また、4島を結ぶ観光ルートづくりについては、観光ルートの設定や受け皿づくり等について関係事業者と協議していきたい。



自由民主党

銅座町松が枝町線の早期着手

問 銅座町松が枝町線のうち銅座橋から湊公園の区間の道路整備は、銅座がいわいの魅力向上や交通の円滑化をもたらすため、早期着手すべきではないか。

答 「浜町・銅座エリア」においては、まちぶらプロジェクト(※)の一環として、銅座地区の賑わいの再生や防災性の向上、慢性的な交通渋滞の緩和を図るとともに、沿道を歩いて楽しめる「銅座川プロムナード」を整備することとしている。



▲都市計画道路「銅座町松が枝町線」

また、同路線は、都市計画道路「銅座町松が枝町線」として整備するため、平成26年10月に都市計画の変更を行い、平成27年2月24日に、湊公園付近から銅座橋を経由し、春雨通りに出るまでの区間の事業認可を取得したところである。なお、平成27年度から国庫補助事業として事業に着手し、10年間を目標に整備することとしている。

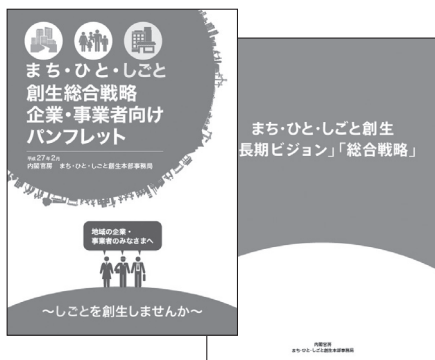
※ まちぶらプロジェクトとは、今後、長崎のまちの形が大きく変わろうとする中で、歴史的な文化や伝統に培われた長崎の中心部である「まちなか」の賑わい再生を市民と一体となって図るもの。

地方創生

問 地方創生を図るためのまちづくりにおいては、将来のランドデザインを描き、国の地方創生の事業に位置付けて推進を図り、財政支援等を受けながら進めていく必要があるが、市として対策を推進する組織を考えているのか。

答 国は、平成72年に1億人程度の人口を確保することを目標とする「長期ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しており、地方には「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」の策定を要請している。

なお、本市における所管は、企画財政部であり、地方創生を図るためのまちづくりについては、ランドデザインを描き、それに沿った取り組みを長崎市版総合戦略に織り込むことで、国の財政支援等も受けながら取り組みを進めていきたい。



▲首相官邸ホームページ掲載のパンフレット